

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年8月14日
【四半期会計期間】	第21期第2四半期（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）
【会社名】	株式会社フォーサイド
【英訳名】	Forside Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 根津 孝規
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号
【電話番号】	03(6262)1056
【事務連絡者氏名】	常務取締役 飯田 潔
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号
【電話番号】	03(6262)1056
【事務連絡者氏名】	常務取締役 飯田 潔
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第20期 第2四半期連結 累計期間	第21期 第2四半期連結 累計期間	第20期
会計期間	自2019年 1月1日 至2019年 6月30日	自2020年 1月1日 至2020年 6月30日	自2019年 1月1日 至2019年 12月31日
営業収益 (千円)	1,924,987	1,889,854	4,040,229
経常利益又は経常損失 () (千円)	23,814	51,403	47,327
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	111,642	346,988	156,187
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	246,473	320,910	230,205
純資産額 (千円)	1,082,665	1,096,983	1,425,568
総資産額 (千円)	3,147,769	3,555,426	3,687,828
1株当たり四半期(当期)純損失 () (円)	3.56	10.66	4.95
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	33.6	30.4	38.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	69,406	118,093	8,567
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	538,545	193,600	230,496
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	663,979	90,902	262,210
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	433,946	632,833	466,799

回次	第20期 第2四半期連結 会計期間	第21期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年 4月1日 至2019年 6月30日	自2020年 4月1日 至2020年 6月30日
1株当たり四半期純利益又は1株 当たり四半期純損失() (円)	1.85	0.07

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。
3. 営業収益には消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクは次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大について

新型コロナウイルス感染症の拡大により、当社グループの販売計画の実行及び営業活動の減速を余儀なくされている状況であります。今後、新型コロナウイルス感染症の収束の時期が長引くほど、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローへの影響が拡大する可能性があります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け2020年4月7日に緊急事態宣言が発出される等、景気は急速に悪化し、極めて厳しい状況にあります。緊急事態宣言解除後は、経済活動のレベルを段階的に引き上げていますが、新型コロナウイルス感染症の第2波も懸念されており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの事業領域であるプライズゲーム市場におきましては、国や地方自治体からの休業要請に基づき、アミューズメント施設の多くが感染拡大防止のため休業いたしました。休業要請解除後は、段階的に営業を開始しておりますが、社会全体の行動様式の変化を受け、来店者数は回復傾向にあるものの、今後の動向を注視していく必要があります。一方で、外出自粛が追い風となり、オンラインクレーンゲームのユーザー数は増加傾向にあり、更なる需要拡大が期待されています。住宅市場におきましては、2020年6月の新設住宅着工戸数が前年同月比12.8%の減少となり、前年同月比で12ヶ月連続の減少となりました。また、貸家着工戸数においても、前年同月比で22ヶ月連続の減少となり、今後も低調な推移が続くことが予想されます。

このような経済状況の中、当社グループはプライズ事業、不動産関連事業、投資銀行事業を中心に、収益の一層の拡大に取り組んでまいりましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、営業活動の自粛を余儀なくされたことで、販売計画の実行に影響が生じる一方、一層の原価及び販管費の抑制に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けたものの、不動産関連事業が堅調に推移したことに比べ、第1四半期連結累計期間より映像制作事業が新たに加わったこと等により、営業収益は1,889,854千円（前年同期比1.8%減）となりました。

利益については、営業収益の減少や投資銀行事業での案件成約数が当初計画に対し低調に推移し、固定費の見直しを図る等の一層の対応を図りましたが、営業損失は97,430千円（前年同期は営業利益2,516千円）となりました。経常損失は保険解約返戻金や持続化給付金を計上したこと等により51,403千円の経常損失（前年同期は経常利益23,814千円）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益は固定資産及びのれんの減損損失、貸倒引当金繰入額並びに投資有価証券評価損を計上したこと等により346,988千円の親会社株主に帰属する四半期純損失（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失111,642千円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

プライズ事業

プライズ事業につきましては、主に株式会社ブレイクがクレーンゲーム機等のプライズゲーム用景品の企画・製作・販売を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、2020年4月以降、取引先の多くが休業を余儀なくされたことにより、G.Wに向けた販売実績が低調に推移いたしました。休業要請解除後は、取引先の営業再開に伴い、出荷を再開しております。

以上の結果、売上高は857,383千円（前年同期比18.3%減）、セグメント利益は48,188千円（前年同期比32.9%減）となりました。

不動産関連事業

不動産関連事業につきましては、主に日本賃貸住宅保証機構株式会社が家賃保証業務及び物件管理業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、2020年4月の民法改正等により、家賃保証事業者のニーズが高まり、営業活動が制限される中においても、新規獲得件数及び保証債務残高は堅調に推移いたしました。なお、新型コロナウイルスの影響で貸借人の雇止めや収入の減少等により、家賃滞納者が増加することが予想されましたが、公的支援制度の整備が進んだこと等により、当第2四半期連結累計期間において、顕著な増加はありませんでした。

以上の結果、売上高は659,086千円（前年同期比5.5%増）、セグメント利益は10,245千円（前年同期はセグメント損失625千円）となりました。

投資銀行事業

投資銀行事業においては、主にフォーサイドフィナンシャルサービス株式会社がM&Aのアドバイザー業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルスの影響で営業活動が大幅に制限され、厳しい状況が続いております。案件及びクライアントを国内にしぼり、成約に注力いたしました。売上高及びセグメント利益ともに大幅に減少いたしました。

以上の結果、売上高は7,787千円（前年同期比90.4%減）、セグメント損失は53,629千円（前年同期はセグメント利益39,258千円）となりました。

コンテンツ事業

コンテンツ事業においては、株式会社モビぶっくが主に電子書籍配信サイト「モビぶっく」の運営を行い、フォーサイドメディア株式会社が映像制作事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、在宅での娯楽需要の高まりをうけ、電子書籍配信サイト「モビぶっく」における売上は堅調に推移し、利益を確保しております。映像制作事業においては、緊急事態宣言の発出により屋内外を問わず、多くの撮影が延期又は中止になる等、多大な影響がでております。なお、緊急事態宣言解除後は、新型コロナウイルス対策を講じた上で、撮影を順次再開しております。

以上の結果、売上高は217,534千円（前年同期比151.8%増）、セグメント損失は7,704千円（前年同期はセグメント利益9,902千円）となりました。

イベント事業

イベント事業においては各地の大型商業施設の催事場にて著名なコンテンツの展示販売を中心に行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルスの影響で、いくつかのイベントにおいて中止や延期が余儀なくされ、想定した売上計画を達成することが出来ませんでした。

以上の結果、売上高は59,529千円（前年同期比0.6%減）、セグメント損失は8,096千円（前年同期はセグメント損失7,047千円）となりました。

マスターライセンス事業

マスターライセンス事業においては、株式会社マーベラスアーク、フォーサイドメディア株式会社が主に音楽関連事業、出版事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、対面でのライブ活動が制限される中で、新たな取り組みとして、無観客ライブの配信やオンラインでのグッズ販売を開始し、好調に推移いたしました。出版事業においては、緊急事態宣言の発出により撮影が行えず、2020年8月号の休刊を余儀なくされましたが、2020年10月号での復刊に向けて準備を進めております。

以上の結果、売上高は87,188千円（前年同期は2,185千円）、セグメント損失は469千円（前年同期はセグメント損失34,357千円）となりました。

その他の事業

その他の事業においては、主にフォーサイドフィナンシャルサービス株式会社が金融事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、貸付金の回収に注力し、販売管理費用の抑制に努めました。

以上の結果、売上高は1,343千円（前年同期比93.5%減）、セグメント利益は1,193千円（前年同期比93.9%減）となりました。

(2) 財政状態

総資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて132,401千円減少し3,555,426千円となりました。主な要因と致しましては、現金及び預金の増加166,033千円、投資有価証券の減少182,940千円及びのれんの減少170,050千円等によるものであります。

負債

当第2四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて196,183千円増加し2,458,443千円となりました。主な要因と致しましては、長期借入金（1年以内返済予定含む）の増加175,614千円等によるものであります。

純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて328,585千円減少し1,096,983千円となりました。主な要因と致しましては、親会社株主に帰属する四半期純損失346,988千円等を計上したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて166,033千円増加し、632,833千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況及びこれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、118,093千円の支出（前年同期は69,406千円の収入）となりました。主な要因と致しましては、売上債権が101,952千円減少したものの、税金等調整前四半期純損失342,998千円を計上したことや代位弁済の増加に伴い立替金が176,146千円増加したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、193,600千円の収入（前年同期は538,545千円の収入）となりました。主な要因と致しましては、投資有価証券の売却による収入166,323千円を計上したこと等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、90,902千円の収入（前年同期は663,979千円の支出）となりました。主な要因と致しましては、長期借入による収入200,000千円を計上したこと等によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	62,380,000
計	62,380,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年8月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	32,557,704	32,557,704	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	32,557,704	32,557,704		

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2020年4月1日～ 2020年6月30日	-	32,557,704	-	1,432,534	-	1,328,740

(5)【大株主の状況】

2020年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
R - 1 第1号投資事業有限責任 組合	東京都中央区日本橋室町3丁目3番1号	3,208,600	9.86
R - 1 合同会社	東京都中央区日本橋室町3丁目3番1号	2,100,000	6.45
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	756,700	2.33
株式会社ONODERAGROUP	東京都千代田区大手町1丁目1番3号	600,000	1.84
楽天証券株式会社	東京都港区南青山2丁目6番21号	393,500	1.21
及川 博之	青森県弘前市	380,000	1.17
富田 顕嗣	群馬県富岡市	260,000	0.80
スターステークス投資事業有限 責任組合	東京都中央区築地2丁目15番15号	200,000	0.61
田中 正幸	大阪府堺市堺区	196,900	0.61
五十嵐 秀明	東京都荒川区	180,020	0.55
計		8,275,720	25.43

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2020年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 15,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,957,300	319,573	-
単元未満株式	普通株式 585,004	-	-
発行済株式総数	32,557,704	-	-
総株主の議決権	-	319,573	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式1,690株が含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数16個が含まれております。

【自己株式等】

2020年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社フォーサイド	東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号	15,400	-	15,400	0.05
計	-	15,400	-	15,400	0.05

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人八雲による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	466,799	632,833
受取手形及び売掛金	591,570	489,519
商品	168,037	333,388
短期貸付金	62,743	48,138
収納代行未収金	936,738	1,025,342
代位弁済立替金	497,441	674,373
その他	123,154	128,910
貸倒引当金	393,928	543,109
流動資産合計	2,452,555	2,789,395
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	184,512	125,890
土地	164,486	153,155
その他(純額)	15,986	15,235
有形固定資産合計	364,985	294,281
無形固定資産		
ソフトウェア	61,178	51,211
のれん	173,013	2,962
その他	18	18
無形固定資産合計	234,209	54,192
投資その他の資産		
投資有価証券	208,900	25,959
長期貸付金	334,816	374,944
敷金	51,221	46,136
長期未収入金	0	30,500
その他	45,443	6,607
貸倒引当金	4,302	66,590
投資その他の資産合計	636,078	417,557
固定資産合計	1,235,273	766,031
資産合計	3,687,828	3,555,426

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	174,776	189,263
未払金	936,720	1,017,142
未払法人税等	27,232	20,592
前受収益	415,213	442,534
短期借入金	120,000	35,000
1年内返済予定の長期借入金	39,487	40,471
債務保証損失引当金	110,970	111,600
賞与引当金	-	8,500
その他	253,237	232,565
流動負債合計	2,077,638	2,097,669
固定負債		
長期借入金	178,002	352,633
利息返還損失引当金	6,318	6,547
その他	300	1,592
固定負債合計	184,621	360,773
負債合計	2,262,259	2,458,443
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,432,534	1,432,534
資本剰余金	1,973,659	1,973,648
利益剰余金	1,977,531	2,324,520
自己株式	3,380	3,388
株主資本合計	1,425,281	1,078,273
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23,328	2,927
為替換算調整勘定	140	317
その他の包括利益累計額合計	23,468	2,609
新株予約権	23,755	16,100
純資産合計	1,425,568	1,096,983
負債純資産合計	3,687,828	3,555,426

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
営業収益		
売上高	1,299,061	1,229,332
その他の営業収益	625,926	660,521
営業収益合計	1,924,987	1,889,854
営業原価		
売上原価	877,848	878,742
その他の原価	171,821	179,977
営業原価合計	1,049,669	1,058,719
売上総利益	875,317	831,134
販売費及び一般管理費	872,801	928,564
営業利益又は営業損失()	2,516	97,430
営業外収益		
受取利息	5,033	4,315
保険解約返戻金	8,210	36,501
貸倒引当金戻入額	6,354	255
その他	5,302	7,502
営業外収益合計	24,900	48,573
営業外費用		
支払利息	1,634	910
支払手数料	-	683
その他	1,968	953
営業外費用合計	3,602	2,546
経常利益又は経常損失()	23,814	51,403
特別利益		
投資有価証券売却益	-	3,380
新株予約権戻入益	-	7,655
特別利益合計	-	11,035
特別損失		
減損損失	-	208,961
貸倒引当金繰入額	-	40,000
投資有価証券評価損	-	26,880
投資有価証券売却損	-	22,914
固定資産売却損	-	3,873
特別損失合計	-	302,630
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	23,814	342,998
法人税、住民税及び事業税	38,501	3,989
法人税等調整額	245,825	-
法人税等合計	284,326	3,989
四半期純損失()	260,512	346,988
非支配株主に帰属する四半期純損失()	148,870	-
親会社株主に帰属する四半期純損失()	111,642	346,988

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
四半期純損失()	260,512	346,988
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,112	26,255
為替換算調整勘定	73	177
その他の包括利益合計	14,038	26,078
四半期包括利益	246,473	320,910
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	97,603	320,910
非支配株主に係る四半期包括利益	148,870	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	23,814	342,998
減価償却費	27,360	22,156
減損損失	-	208,961
のれん償却額	35,524	18,969
貸倒引当金の増減額(は減少)	91,978	211,468
受取利息及び受取配当金	5,033	4,315
支払利息	1,634	910
為替差損益(は益)	613	185
保険解約返戻金	-	36,501
新株予約権戻入益	-	7,655
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	-	46,415
固定資産売却損益(は益)	-	3,873
売上債権の増減額(は増加)	37,864	101,952
たな卸資産の増減額(は増加)	26,293	165,412
仕入債務の増減額(は減少)	49,881	14,521
賞与引当金の増減額(は減少)	924	8,500
債務保証損失引当金の増減額(は減少)	4,660	630
事業整理損失引当金の増減額(は減少)	10,708	-
利息返還損失引当金の増減額(は減少)	166	228
立替金の増減額(は増加)	122,360	176,146
前受金の増減額(は減少)	66,429	27,652
前渡金の増減額(は増加)	13,184	2,664
未収入金の増減額(は増加)	117,680	68,212
長期未収入金の増減額(は増加)	-	30,500
未払金の増減額(は減少)	26,420	80,312
未払費用の増減額(は減少)	19,182	5,084
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(は減少)	27,863	164
その他	54,558	33,140
小計	149,734	121,101
利息及び配当金の受取額	4,606	672
利息の支払額	1,644	1,399
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	83,290	3,734
営業活動によるキャッシュ・フロー	69,406	118,093
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	8,919	7,678
有形固定資産の売却による収入	-	34,782
無形固定資産の取得による支出	3,439	850
事業譲受による支出	-	50,602
投資有価証券の取得による支出	-	2,250
投資有価証券の売却による収入	-	166,323
保険積立金の払戻による収入	9,629	76,888
敷金の差入による支出	266	-
敷金の回収による収入	500	1,800
貸付けによる支出	248,514	61,560
貸付金の回収による収入	793,258	36,747
のれんの取得による支出	3,703	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	538,545	193,600
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	86	34
自己株式の処分による収入	34	14
短期借入金の純増減額(は減少)	23,775	85,000
長期借入れによる収入	10,799	200,000
長期借入金の返済による支出	122,501	24,077
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	576,000	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	663,979	90,902
現金及び現金同等物に係る換算差額	832	375
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	55,194	166,033
現金及び現金同等物の期首残高	489,140	466,799
現金及び現金同等物の四半期末残高	433,946	632,833

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響について、今後の広がり方や収束時期等に関して先行きを予測することは困難であります。当社グループでは、現時点で入手可能な外部情報等に基づき、当該感染症の影響は第3四半期以降、徐々に回復するものと仮定して、固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

保証債務残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
債務保証額(注)	5,345,852千円	5,540,053千円
債務保証損失引当金	110,970	111,600
差引額	5,234,882	5,428,453

(注) 賃借人の支払家賃等に対し債務保証を行っております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
給与手当	185,899千円	204,674千円
支払手数料	116,400	158,192
貸倒引当金繰入額	102,273	171,723

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
現金及び預金勘定	433,946千円	632,833千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	433,946	632,833

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

当社は、2019年3月1日において日本賃貸住宅保証機構株式会社の株式を追加取得し、同社を完全子会社としたことに伴い、当社が追加取得した株式の取得原価と、追加取得に伴う非支配株主持分の減少額との差額である553,595千円を資本剰余金より減額しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が1,806,039千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						その他 (注)1
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライツ	
売上高							
外部顧客への売上高	1,049,601	624,921	81,300	86,397	59,889	2,185	20,692
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,049,601	624,921	81,300	86,397	59,889	2,185	20,692
セグメント利益又は セグメント損失()	71,855	625	39,258	9,902	7,047	34,357	19,481

(単位:千円)

	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高			
外部顧客への売上高	1,924,987	-	1,924,987
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-
計	1,924,987	-	1,924,987
セグメント利益又は セグメント損失()	98,466	95,950	2,516

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 95,950千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項ありません。

当第2四半期連結累計期間（自2020年1月1日至2020年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						その他 (注)1
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライセンス	
売上高							
外部顧客への売上高	857,383	659,086	7,787	217,534	59,529	87,188	1,343
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	857,383	659,086	7,787	217,534	59,529	87,188	1,343
セグメント利益又は セグメント損失()	48,188	10,245	53,629	7,704	8,096	469	1,193

(単位：千円)

	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高			
外部顧客への売上高	1,889,854	-	1,889,854
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-
計	1,889,854	-	1,889,854
セグメント利益又は セグメント損失()	10,272	87,157	97,430

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 87,157千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項ありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から「フィンテック関連」については、量的な重要性が低下したため「その他」に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間のセグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
1株当たり四半期純損失()	3円56銭	10円66銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	111,642	346,988
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 損失()(千円)	111,642	346,988
普通株式の期中平均株式数(株)	31,382,965	32,542,315

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月14日

株式会社フォーサイド

取締役会 御中

監査法人 八雲

指 定 社 員
業務執行社員 公認会計士 橋川 浩之 印

指 定 社 員
業務執行社員 公認会計士 安藤 竜彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フォーサイドの2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フォーサイド及び連結子会社の2020年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。